登山月報

第 57 回全国高等学校登山大会（大分）…… 1
第1回 近畿トレッキングフェスタ開催…… 2
平成 25 年度「山岳自然の集い 中央大会」 … 3
第 59 回 Mountain World …… 4
平成 25 年度中高年安全登山指導者講習会 … 5
「東部地区」報告
無雪期レスキュー講習会（西部地区）を登山研で実施… 7
速報 男女総合・女子総合成績（天皇杯・皇后杯得点） 8
ジャムリン・テンジン氏来日…… 9
日本山岳文化学会第 11 回大会案内 …… 9
ＪＭＡ、寄贈図書、編集後記 …… 9

第57回全国高等学校登山大会（大分）
「吹きわたれ　若人の風　北部九州へ」

８月２日（金）から６日（火）に亙り全国高校総体（インターハイ）登山大会が、大分県竹田市久住山、中岳、大船山山域において『吹きわたれ　若人の風　北部九州へ』を大会スローガンとして開催された。北海道から鹿児島の全国46都道府県より団体男子（Ａ隊）46校、団体女子（Ｂ隊）45校，合計91校の選手監督455名、ならびに大会役員、補助員、関係者408名、総勢863名の山を愛する仲間が、阿蘇くじゅう国立公園の一角をなす山域に集まった。

大会初日の開会式では、神﨑忠男・日山協会長から「登山は生活に密着した生きる力を育むスポーツであり、社会に親しまれるスポーツである。これこそこの大会の意義である。自分は石川県の白山で開催された昭和33年の第２回全国高等学校登山大会をきっかけに登山を始めた。日山協は４月から公益社団法人になった。これからは登山界が一つになって社会に期待される組織となることが重要。その正しい登山環境をつくっていくため高校生諸君に大きな期待をしている。」と重みのある挨拶があった。

選手は、開会式後に知識審査を受け、バスで幕営地である竹田市直入総合運動公園に向かった。選手が３泊する直入総合運動公園は、陸上競技場、体育館、格技場、テニスコートも備えた総合スポーツ施設で、野球場の外野芝生に広々としたテントスペースが設けられ、設営、炊事審査が行われた。

中岳コース（池の小屋）でのヘリによる空撮

開会式で挨拶をする神﨑会長

大会２日目からは、本格的な登山行動である。Ａ隊はメインザック行動で中岳コース。Ｂ隊もメインザック行動で久住山コースに挑む。数チームに班離脱、行動離脱が見られたが、どのチームもその日のうちに復帰できた。好天にも恵まれ、多くの選手・監督が中岳、久住山の山頂からくじゅう連山の雄大な景色を満喫できた。また、両コースの山頂付近ではヘリコプターによる空撮が行われ、素晴らしい思い出となった。

大会３日目は，Ａ隊、Ｂ隊とも昨日のコースを入れ替えて登った。Ｂ隊はサブザック行動であったが、昼前から激しい雨となり、悪天候により中岳登頂をカットして下山した。雨でぬかるんだ南登山道の下りに苦労したチームが多く、行動離脱した選手の中には支援と共に牧ノ戸峠へ下山する者もいた。雨は午後から雷雨となり、テント泊は危険なため、この日の宿泊はＡ隊（男子）は体育館、Ｂ隊（女子）は格技場の室内泊の措置をとった。

大会４日目は、Ａ、Ｂ隊とも大船山コースにサブザッ

ク行動で登る予定だった。しかし、雷雨のため、選手の安全を第一と考え大船山登頂を断念し、牧野道終点を往復するコースに変更した。往路はチーム行動がとられ、多くのチームが雨の中、整然と力強い歩みを見せてくれた。

大会最終日、未明に閉会式会場である竹田高校体育館の電源が落ちるというハプニングが起きたが、学校関係者の迅速な対応により復旧し、無事に閉会式が行われた。

平成13年の熊本大会に始まり、15年長崎大会、19年佐賀大会、22年鹿児島・宮崎（霧島）大会、そして今回の大分大会と、近年九州地区での全国登山大会開催が集中している。南国九州ならではの暑さとの戦いも然る事ながら、雄大な火山地形と可憐な高山植物を楽しむことができた大分大会であった。

最後にこの大会のために準備段階からご尽力いただいた、竹田市実行委員会、大分県高体連の方々に深謝の意を表するとともに、くじゅう山域に集った若き岳人達が次世代の登山界を発展させてくれることを切望する。

（記　青木秀則）

大会成績

団体男子（A隊）		団体女子（B隊）	
優　勝	下松工業（山口）	優　勝	大村（長崎）
第２位	松本県ヶ丘（長野）	第２位	富士宮西（静岡）
第３位	長崎北陽台（長崎）	第３位	山形西（山形）
第４位	富士宮西（静岡）	第４位	松山南（愛媛）
第５位	修道（広島）	第５位	仙台三桜（宮城）
第６位	竹田（大分）	第６位	武生（福井）

第1回 近畿トレッキングフェスタ開催

９月28日、29日近畿地区山岳連盟主催・滋賀県山岳連盟主管の交流登山大会が、マキノ高原・高島トレイルを会場に開催されました。半世紀近く前にあった関西地区交流登山大会のリニューアル版で近畿トレッキングフェスタと銘うち、第１回目を滋賀県山岳連盟が主管したものです。近畿２府４県の岳連をとおして、またホームページを活用して広く呼びかけた結果、岳連会員のみならず一般の登山愛好家やファミリーの申し込みもあり、総勢で130名ほどの参加がありました。

28日はマキノ高原でのオートキャンプ、開会式、屋台も出て盛り上がった交流会。夜遅くまで語り合う岳人の姿があちこちで見られました。

29日は中央分水嶺高島トレイルの登山。滋賀岳連の役員を要所に配置し、安全を確保したコースを参加者は各自のペースで山歩きを楽しみました。

今回のトレッキングフェスタを開催するについて、滋賀岳連は半年前から準備にあたり、会場や山域さらに交流会の内容について種々工夫をしてきました。山仲間が集う交流会は、古い山仲間との再会など誰もが楽しむことができた内容になったと思います。主管する岳連のメンバー自身が楽しめる内容であってこそこの種の大会は成功すると思います。次年度は京都岳連の主管で開催される予定です。楽しみにしています。

（近畿トレッキングフェスタ実行委員長　澤山　惠）

オートキャンプ

高島トレイルのトレッキング

ニュージーランド随一のスカイライントレッキング
ルートバーン・トラックと マウントクック 9日間
発着地 東京　旅行代金 ¥548,000～¥572,000
出発日 12/6(金)・1/17(金)・2/21(金)・3/14(金)
※燃油サーチャージ（2013年9月20日現在：目安約42,000円）が別途必要です。
旅行企画・実施　観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員／ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033　名古屋 ☎052-581-3211　福岡 ☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

平成25年度「山岳自然の集い 中央大会」
（第37回自然保護委員総会）

平成25年９月14日（土）～16日（祝）、埼玉県立小川げんきプラザ（比企郡小川町木呂子）にて、22都道府県から107名が参加して「山岳自然の集い 中央大会(第37回自然保護委員総会)が開催された。

本大会は、日山協の公益法人化を記念して、関東地区山岳連盟の自然保護委員会からなる実行委員会が主管した。「守ろう、伝えよう、山岳の自然と文化」をテーマに２泊３日を掛け、通常の総会議事に加え、山岳の自然環境の保全についての現状と課題の集中討議や、山岳自然と文化の再発見のプログラムを取り入れ、在来の大会（総会）とは一味違った内容とし、登山者が出来る自然環境保全や再生に向けた行動を考える集いとなった。

【第１日目】

神﨑忠男会長から「自然保護をやることにおいて、心のケアとマナーとモラルにつながるような活動を期待し、公益社団法人にふさわしい、社会の一員としての責任、使命、社会貢献、公益事業をしっかりと整えて、意識が公益性を求めた組織の環境づくりをしよう。」と挨拶。続いて石倉昭一自然保護委員長から、「山岳自然活動を一層活性化する契機にしよう」と大会への期待が述べられた。地元からは森下健七郎・埼玉県山岳連盟会長、脇坂純一・埼玉県環境部自然課長、笠原喜平・小川町長から来賓の挨拶を頂き、議事に入った。

議事では通常報告のほか、減少する自然保護指導員数について報告され活性化の協力が呼び掛けられた。次期開催県として、広島県山岳連盟が紹介され議事を結んだ。

引き続き行われた参加各都道府県の活動発表では、各地の特有の事情や課題が明らかにされた。

【第２日目】

生憎の雨天のため室内に場所を移して、施設内植生について行われた早朝レクチャーでは、予め用意した葉の標本や写真などを使用して、自由参加ではあったが、参加者の多くが朝食前のひと時を、熱心に過ごした。

朝食後の午前中を利用して、前日行われた活動発表に引き続く討議として、分科会形式で「利用者負担・受益者負担」、「自然・資源疲弊」、「自然保護指導員の役割」をテーマにし、活発な意見交換が行われた。

第２日午後には、一般公開にて、地元文化の紹介と講演が行われ、前者では小鹿野こども歌舞伎による「三人吉三巴白浪 大川端出会之場」が上演され、近在の参加者を入れ会場が満員の盛況となった。後者では、３題の講演が行われ、山のＥＣＨＯ代表理事の上幸雄氏から『山はみんなの宝』憲章制定の経緯、皆さんへの期待と今後の展開」、神奈川県立秦野ビジターセンター所長でクマ生態の研究者・長縄今日子氏から「ツキノワグマを通してみた山岳自然について」、秩父山岳協会会長で元日山協自然保護常任委員の浅見豊氏から「知知夫国と嶽（たけ）やま（武甲山）」と題した講演に傾聴した。

夕食後のひと時を利用したナイトフォーラムでは、藤井謙昌氏の「宇宙創成から現在の日本列島まで」と、齋藤次江氏の「星空ウォチング」と題するトークを行った。

【第３日目】

台風18号による荒天のため、予定のエキスカーションのうち両神山登山を中止。高尾山と長瀞地質探勝は内容を一部変更して実施し、大会が閉幕となった。

【最後に】

小鹿野町教育委員会、小鹿野歌舞伎保存会、小川町、県立小川げんきプラザなどの地元のご協力で大会が無事閉幕したことに感謝します。また、次期総会により一層多くの参加を期待します。

（自然保護委員会　松隈）

第59回 Mountain World

フエゴ島サルミエントの冬季初登頂

池田常道

モンテ。サルミエントは南米大陸最南端のフエゴ島（ティエラ・デル・フエゴ＝火の土地）にある。東西二つの頂から成り、東峰（約2200m）が主峰、600m離れて西峰（約2100m）がある。南半球では冬に当たるこの８月24日、アルゼンチンのナタリア・マルティネスとチリのカミロ・ラダが北壁から東峰に登ったが、これは、なんと57年ぶりの第2登だった。初登頂は1956年3月に南稜を登ったデ・アゴスティーニのイタリア隊で、頂上に立ったのはカルロ・マウリとクレメンテ・マッフェイである。

マルティネスとラダは、より大掛かりな学術調査隊に加わってこの地を訪れた。ウスワイアからの航海は評判どおりの悪天候にさいなまれたが、夏に比べると冬の強風は幾分おだやかだったという。コンウェイ氷河からスキーを使って北壁基部の台地に上がった二人は、そこにハイキャンプを設けた。

北壁最初の難関は取付きのベルクシュルントで、そこは部厚いライムアイス（霜氷）におおわれた5mのオーバーハングになっていた。その先7ピッチは、5ピッチ目の垂直部を除いて65度から75度の傾斜で続いていた。最後には傾斜もゆるんだが、今度は深い雪を漕いで進まなければならなかった。20時間にわたる登攀そのものは順調に行ったが、プロテクションが取りづらく、アイススクリューをしっかり埋め込むのに多大な時間を食われた。

北壁そのものは予想したより易しかったが、「気温の高い夏だったら、頭上に折り重なった氷のマッシュルームがもっと危険だったろう」とラダは述べている。彼らは10時間かけて懸垂下降し、このルートをスエルテ・デ・サルミエント（サルミエントの幸運）と呼んだ。グレードはD+、400mである。

なお、サルミエント東峰には初登頂から10年後に日本隊も挑んだことがある。佐伯富男、遠藤禎一、橋本正人の北大隊で、デ・アゴスティーニ隊がたどった南稜を1800mまで登ったものの悪天候に追い返されてしまった。また69年にはイタリアのジュゼッペ・アニョロッティ隊が、エスカンダジョ湾からブランカ氷河を経て北東のコルまで達している。

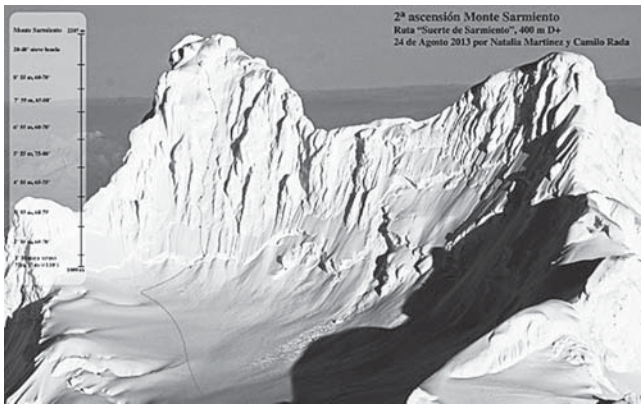
＊

東峰の歴史は、いま述べたようにはっきりしているのだが、西峰のそれは疑問を残している。前述したアニョロッティ隊が1971、72年と失敗したあと86年のイタリア「レッコの蜘蛛」隊が西バットレスを登ったというが、これがどうもすっきりしないのだ。ＡＡＪ（アメリカン・アルパイン・ジャーナル）1988年版に出たその報告はダニエーレ・ボジジオ、マルコ・デッラ・サンタ、マリオ・パンツェーリが12月8日に登頂したとしていたが、7年もたった95年版ではルイジ・アリッピ隊長以下ピニッチオ・カステルヌオーヴォ、ロレンツォ・マッツォレーニ、サルヴァトーレ・パンツェーリ、ブルーノ・ベナッティ、クレメンテ・マッフェイの６人が頂上に立ったと訂正された。

さらに2010年になってからパンツェーリが明らかにしたところによると、アリッピとマッフェイは当時BCに留まっており、二人の代わりにジャンマリア・コンファロが登頂したのだという。しかもそれは12月24日のことだった。またパンツェーリは、彼らのルートが西バットレスではなく、北壁から東稜を経るものだったと語っている。

こうした二重三重の訂正は何を物語っているのだろうか。誰が真実を語っているのか、疑問は深まるばかりだ。

2010年４月、ロベルト・ヤスパー、イェルン・ヘラー、ラルフ・ガンツホルンのドイツ隊はこの記録の詳細を知らぬまま、北稜から北壁をトラバースして東稜に抜けた。彼らはこのルート「マゼランのオデッセイ」が北面からの初登攀だと思っていた。パンツェーリが、自分たちのルートを北壁だったと認めたのは、この記録が明らかになったあとのことだった。



サルミエント東峰(左）と西峰。北壁の登攀ルートを示す。

平成25年度中高年安全登山指導者講習会 「東部地区」報告

日　時　平成25年９月27日（金）～９月29日（日）

会　場　愛知県新城市　県民の森および宇連山

開閉講式・宿泊場所：モリトピア愛知（県民の森管理棟）

主　催　独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所、公益社団法人日本山岳協会

共　催　愛知県教育委員会

後　援　文部科学省

主　管　愛知県山岳連盟

参加者　受講者37名、主催者４名、共催者１名、講義講師３名、分科会助言者３名、分科会座長３名、実技講師15名、看護師１名、主管スタッフ16名。

【準　備】

平成24年12月６日に本講習会の主管依頼が通知され、平成25年１月21日に岸記念体育館103号会議室で本講習会の「連絡会議」が開催された。絞ったテーマで２～３年続けて、安全登山のために実効ある啓発を各地で目指すこととなり、「道迷い防止」や「気象遭難防止」に関係するテーマが提案され、合意された。

そこで東部地区では、第１日目の講義にナビゲーション技術と山岳気象の講義、第２日目はナビゲーションの実技、第３日目は中高年登山の課題・登山計画・気象遭難をテーマで協議することにした。実技講師は、平成24年度と25年度の県内読図講習会で研修した指導員をコアとした。本年８月４日に現地調査、８月17日に全体進行と役割分担の確認、８月25日に現地調査と無線状況調査、９月23日に最終現地調査を行った。

【１日目】

開講式　主催者の国立登山研修所・渡邉雄二所長と日本山岳協会・神﨑忠男会長、共催者の愛知県教育委員会体育スポーツ課主任主査久保田竜弥氏からの挨拶、主管の安藤武典愛知岳連会長が歓迎の辞を述べた。

講義Ⅰ　「道迷い防止のためのナビゲーションの考え方」

講師　村越真氏（静岡大学教授、国立登山研修所専門調査委員）

最初の20分間でナビゲーション技術に関する筆記テストと解説が行われた。これを通じ、地図を「持つ」・「読める」・「使える」という３段階が確認された。

講義では、中高年遭難事故の実態として、道迷い事故が一番多く、60代で特に多く、低山で多く、無事救助も多いという特徴が詳細な調査結果から示された。

道迷いは道間違いからの道迷いへの進行であることも解説された。この対策として、ルートプラン・ルート維持・現在地の把握のサイクルを回すことが重要であることが強調された。具体的な事例を挙げて、パワーポイントとホワイトボードを組み合わせ、対話形式で理解を促す内容であった。 折り紙での尾根・谷イメージや練習問題で、ナビゲーションを楽しく学んだ。

講義Ⅱ　「登山計画とナビゲーション技術の実際」

講師　小林亘氏（日本プロガイド協会所属、国立登山研修所専門調査員）

道迷防止には、(1) 登山計画段階から地形図で検討、(2) 現在地を把握し続けることが安心につながり、事故防止に効果があること、(3) 予測した地点に正しく着いた時の嬉しさも登山に加えようと提案された。

次にナビゲーションに不可欠な読図の基本から応用が説明された。配布された「お稽古帳」を使い、地形図上の等高線や記号の意味、磁北線の引き方、等高線から傾斜の想像、等高線から尾根や谷を区別、コンパスの使い方を演習した。不慣れな人にも分かりやすく、伝達しやすい講義であった。また、地図の読み違え、ルートの思い込み、局所の方向判断の違い、頂上での方向確認ミスも例示され、実技地図も例に読図した。

講義Ⅲ　「山岳遭難を防ぐための気象の基礎」

講師　上田歳彦氏（気象予報士、NPO法人ウエザーフロンティア東海、豊川山岳会）

ここでは(1)気象の基礎、(2)天気図の見方と活用、(3)安全登山のための準備と実践について講義された。

(1)大気とそれに含まれる水蒸気、大気の安定・不安定、雲の発生と３タイプの上昇気流が解説された。温帯低気圧の発生と発達と気団は山岳遭難の原因として最も注意すべきであることも強調された。

(2) 春秋・夏・冬の典型的な気圧配置について高層天気図と地上天気図とで説明され、等高度線や等温線の意味や天気の変化も詳しく説明された。まずは普段から天気図を見て、慣れることも勧められた。

(3) 登山での気象情報の活用が紹介された。例えば、クラブに気象担当もおくこと、２日以上の山行では担当者から気象情報支援、山の天気予報のウェブサイトやメールサービスなど、気象遭難防止が提案された。

【２日目】

実技研修

９時00分　宿泊所を出発し、芝生広場で準備体操。

9時40分　芝生広場から5分おきに班ごとに出発。
12時頃　744ピーク着。昼食休憩。
13時頃　班ごとに5分おきに744ピークを出発。
15時頃　1班から順に芝生広場に到着。
16時頃　芝生広場でコンパス123を練習。
16時30分　宿泊所に到着。終始好天の一日。
18時30分　情報交換会にて、各自意見の発表。
21時00分　情報交換会終了。
（班ごとに順番に到達したので、標準時間を記載）

実技のメインテーマは「地図を使おう」である。

芝生広場までは大きな橋や林道の分岐を見つけ、地図の記号が実物を連想しやすいことを確認した。

芝生広場から744ピークまでのサブテーマは「特徴物（地図から読める特徴的な場所）を知ろう」である。ルートと磁北線を引いた2倍の拡大地図を使った。先頭1班にオリエンテーリング用ポストを置いてもらい、現地の風景・地形と地図との照合を繰り返した。

744ピーク付近では、全員にルート上に特徴物のあるポイント記載の地図が配布された。ここからのサブテーマは「特徴物を予測しよう」である。見落とし易い分岐などを予測しながら、登りと違う尾根を下る。

林道近くまで下りて、最後のサブテーマ「特徴物を確認しよう」となった。予測地点では、何を根拠に確定したかを受講者に説明してもらい、複数の信頼性の高い空間情報と地図情報を確認し合った。

芝生広場に戻って、班毎にコンパス１２３と歩測を組み合わせた練習をして、宿泊所に戻った。

情報交換会では、受講者が講習への参加動機や講義・実技の感想などを簡潔に発表し、交流も深めた。

【3日目】

研究協議会（分科会）

第1分科会　「中高年登山者のために安全登山に関する課題と改善について」

助言者：中平等新一氏（愛知岳連副会長）

座　長：岩瀬幹生氏（愛知岳連副理事長）

本テーマに関する悩みや他県の対処法が話し合われた。(1) クラブでの指導、(2) 一般の登山愛好家への指導、(3) 高齢化するクラブの抱える問題について忌憚のない意見が交換された。経験豊富な中平等氏から貴重な助言も頂いた。それぞれの状況に応じて、様々な対処法があることも分かって、大変参考になった。

第2分科会　「登山計画の立て方と事故防止について」

助言者：高橋優氏（愛知岳連副会長）

座　長：吉村賢氏（愛知岳連遭難対策委員長）

参加者が持ち寄った課題を一通り聞いてから、(1) エスケープのタイミング、(2) 山の難易度分け、(3) 計画書の提出などについて、多くの参考になる事例が紹介された。 万一を想定して計画を練ること、リスクを数えながら計画を実行していくことなど、安全登山の基本を示唆する助言もいただいた。

第3分科会　「気象遭難の身近な事例と防止策について」

助言者：安藤武典氏（愛知岳連会長）

座　長：上田歳彦氏（気象予報士、NPO法人WFT、豊川山岳会）

参加者の貴重な体験を交え、気象遭難に関する事例が報告され、防止策にも話は及んだ。個別のテーマとしては、(1) 泊を伴う山行での天気判断と山行続行判断、(2) 雷の対処法、(3) 地形（地域）と気象の関係、(4) 雪崩の遭遇や回避などであった。スライドも交え、分かり易く協議された。気象情報の獲得の仕方、それを行動につなげる判断のタイミング、対応できる装備や知恵など話は尽きなかった。

全体会

各分科会の座長が討議の要点を報告した。

閉講式

国立登山研修所渡邉雄二所長より受講者代表の福田利之氏（埼玉県）に修了証が授与された。日本山岳協会普及担当の仙石富英常務理事の講評、主管の愛知県山岳連盟安藤武典会長がお礼の挨拶を述べ、予定の日程を終了した。今回は平成６年の愛知国体以来の馴染みの山域を活用した。山登りを楽しむ多くの方々にこの講習会が役立つことを願います。全ての参加者やスタッフのご協力のお陰で無事に講習会が終了いたしましたこと、深く感謝申し上げます。

（愛知県山岳連盟理事長　北村憲彦）

無雪期レスキュー講習会（西部地区）を登山研で実施

平成25年度無雪期レスキュー講習会が８月23日（金）～25日（日）に富山県の国立登山研修所で行われた。totoの助成を受け、縦走・ハイキング、セルフレスキューA、セルフレスキューB、ワークレスキューの４コース30名の受講者で行われた。若い受講者もいて、人数的にもちょうど良い充実した講習会となり、レスキュー技術の習得・研鑽に取り組んだ。

縦走・ハイキングコースは主任講師を瀬藤常任委員が務め、受講者は12名であった。セルフレスキュー概論の講義の後、補助ロープの活用方法の実技、模擬登山道での活用練習、搬送法や救急法の実技として止血、捻挫の処置などの応急手当を行い、最終日は負傷者の応急手当と搬送を行う事故発生のシミュレーションを行った。

セルフレスキューは渡邊常任委員と石田常任委員が主任講師を務め、受講者は14名であった。受講生にレベル差があり、２つに分けて講習が行われた。アンカーの作り方や基本的なノット、流動分散、懸垂下降時のワンターンによる制動の実態、自己脱出、自己吊り上げ、リードビレイからの自己脱出、介助懸垂、背負い振り分け搬送などを行った。

ワークレスキューは町田常任委員が主任講師を務め、受講者は４名であった。消防の方と登山者が半々であった。基本技術のおさらいの後、フィックスロープの通過方法、ロワーダウン、ライジングだけでなく実態に即したななめ下へのロワーダウンなどレベルの高いレスキュー技術を研修した。

講師14名とあわせて44名での研修は食事や懇親会の準備、後片付けも大変であるが、受講者の協力も得て大変スムーズに行えた。大沼常任委員から大量のスイカが差し入れられ、暑い講習においしい水分補給となった。クライミングを主にしている方、訓練としてしか登っていない方、職業として救助に取り組んでいる方、ハイキングのみの方など取組に大きな違いがあり、４つのコースに分けても技術的なバラツキはとても大きく悩ましい課題である。

次の積雪期レスキュー講習会（東部地区）は来年１月24日（金）～26日（日）に谷川岳の土合山の家で行われますので奮ってご参加ください。内容は①日本雪崩ネットワークセーフティーキャンプ相当クラス②クラス１（雪質観察、ビーコン基本操作、雪崩の予防、シェルター、低体温症）、③クラス２（事故発生から搬出までのレスキュー技術、低体温症）で、クラス２はロープワークを含む基礎技術習得済みの方を対象とします。

（遭難対策委員長　西内　博）

縦走ハイキングのセルフレスキュー

セルフレスキューは基本の確認から

ワークレスキューのシミュレーションの様子

速報

スポーツ祭東京2013（第68回国体山岳競技大会）
男女総合・女子総合成績（天皇杯・皇后杯得点）

区分	都道府県名	競技得点 成年男子 リード	成年男子 ボルダリング	成年女子 リード	成年女子 ボルダリング	少年男子 リード	少年男子 ボルダリング	少年女子 リード	少年女子 ボルダリング	競技得点合計	男女総合成績（天皇杯得点） 算出基礎 競技得点	算出基礎 参加得点	合計	順位	女子総合成績（皇后杯得点） 算出基礎 競技得点	算出基礎 参加得点	合計	順位
1	北海道		15.0	3.0	15.0			12.0	15.0	60.0	60.0	10	70.0	5	45.0	10	55.0	3
2	青森											10	10.0	25		10	10.0	15
3	岩手			12.0	9.0					21.0	21.0	10	31.0	17	21.0	10	31.0	10
4	宮城							9.0	9.0	18.0	18.0	10	28.0	18	18.0	10	28.0	11
5	秋田											10	10.0	25		10	10.0	15
6	山形											10	10.0	25		10	10.0	15
7	福島											10	10.0	25		10	10.0	15
8	茨城	3.0				18.0	12.0			33.0	33.0	10	43.0	11		10	10.0	15
9	栃木							18.0	12.0	30.0	30.0	10	40.0	13	30.0	10	40.0	7
10	群馬											10	10.0	25		10	10.0	15
11	埼玉					24.0	24.0	15.0	24.0	87.0	87.0	10	97.0	1	39.0	10	49.0	5
12	千葉	6.0		21.0	12.0	21.0	15.0			75.0	75.0	10	85.0	3	33.0	10	43.0	6
13	東京		9.0	15.0	24.0			21.0	18.0	87.0	87.0	10	97.0	1	78.0	10	88.0	1
14	神奈川	18.0	18.0							36.0	36.0	10	46.0	9		10	10.0	15
15	山梨			9.0	18.0					27.0	27.0	10	37.0	16	27.0	10	37.0	8
16	新潟			6.0						6.0	6.0	10	16.0	23	6.0	10	16.0	13
17	長野	24.0	21.0							45.0	45.0	10	55.0	7		10	10.0	15
18	富山											10	10.0	25		10	10.0	15
19	石川											10	10.0	25		10	10.0	15
20	福井											10	10.0	25				47
21	静岡						9.0			9.0	9.0	10	19.0	21		10	10.0	15
22	愛知	9.0	24.0							33.0	33.0	10	43.0	11		10	10.0	15
23	三重							24.0	21.0	45.0	45.0	10	55.0	7	45.0	10	10.0	3
24	岐阜					12.0	18.0			30.0	30.0	10	40.0	13		10	10.0	15
25	滋賀											10	10.0	25		10	10.0	15
26	京都				3.0					3.0	3.0	10	13.0	24	3.0	10	13.0	14
27	大阪					15.0	21.0			36.0	36.0	10	46.0	9		10	10.0	15
28	兵庫				6.0	9.0	6.0	6.0	3.0	30.0	30.0	10	40.0	13	15.0	10	25.0	12
29	奈良											10	10.0	25		10	10.0	15
30	和歌山											10	10.0	25		10	10.0	15
31	鳥取					6.0	3.0			9.0	9.0	10	19.0	21		10	10.0	15
32	島根											10	10.0	25		10	10.0	15
33	岡山		12.0							12.0	12.0	10	22.0	19		10	10.0	15
34	広島											10	10.0	25		10	10.0	15
35	山口	15.0	6.0	24.0	21.0	3.0		3.0		72.0	72.0	10	82.0	4	48.0	10	58.0	2
36	香川											10	10.0	25		10	10.0	15
37	徳島											10	10.0	25		10	10.0	15
38	愛媛											10	10.0	25		10	10.0	15
39	高知											10	10.0	25		10	10.0	15
40	福岡											10	10.0	25		10	10.0	15
41	佐賀	12.0								12.0	12.0	10	22.0	19		10	10.0	15
42	長崎	21.0	3.0	18.0					6.0	48.0	48.0	10	58.0	6	24.0	10	34.0	9
43	熊本											10	10.0	25		10	10.0	15
44	大分											10	10.0	25		10	10.0	15
45	宮崎											10	10.0	25		10	10.0	15
46	鹿児島											10	10.0	25		10	10.0	15
47	沖縄											10	10.0	25		10	10.0	15

ジャムリン・テンジン氏来日

エベレストに初登頂したテンジン・ノルゲィのご子息、ジャムリン・テンジン・シェルパ（48歳）氏が来日した。エベレスト初登頂60周年記念としてテンジン・ノルゲィがエベレスト初登頂時に履いていた靴のメーカー、バリー（スイス）社がプロモーション・ゲストとして招請した。10月７日、本協会、ＪＡＣ、山と渓谷社などの関係者で歓迎夕食会を開いた。

日本山岳文化学会第11回大会案内

日　時：11月16日㈯ 9時～18時、17㈰ 9時～12時
場　所：東京慈恵会医科大学「高木会館２号館南講堂」
（地下鉄三田線「御成門」駅下車）
参加費：3,500円（会員外で２日目シンポジウムのみの参加は無料）
内　容
【第１日目】①世界の山名考・世界の聖山の呼び方②世界遺産・富士山へのイコモスの勧告について③信濃川支流，中津川中流域の地形発達などの研究発表と招請講演「山地でマダニの被害を防ぐ」
【第２日目】「山での体と心」をテーマに次の５点について報告、講演。①山を想う心―槍ケ岳でのアンケートから②トレイルランニングの現況と問題点③登山時の疲労対策―サポートタイツの効果④山でケガをしたら⑤山は身も心も豊かにする
●大会への参加等詳細については、
中岡久までお問合せ下さい。hisa-n@fine.ocn.ne.jp

JMA 平成25年度９月（25年９月）常務理事会報告

日　時　平成25年９月12日㈭
17：40～19：00
場　所　岸記念体育会館103会議室
出席者　神﨑会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京オ、水島、瀧本、青木各常務理事、中畠監事
委　任　國松副会長（13名中12名出）

１．専門委員会動静
８月常務理事会以降
（８月８日～９月11日）
［報　告］
⑴自然保護委員会
８月20日㈫　出席者９名
ア　７月常任委員会議事録確認
イ　山岳自然保護の集い・中央大会について
・申込み状況：22都道府県、139名
・エキスカーション参加者：両神44名、高尾21名、長瀞17名
・モーニングウォークと長瀞地質探勝の下見報告（8/21）
・大会プログラムの制作について
ウ　山岳団体自然環境連絡会報告（7/29）
エ　第１回アジア国立公園会議基調講演の聴講者募集の件（11/13、仙台）
オ　朝日地球環境フォーラムについて（9/30～10/1）
⑵遭難対策委員会
８月25日㈰　出席者15名
ア　無積雪期レスキュー講習会の反省について
イ　ロープ強度試験について
ウ　日中韓技術交流研修会について
エ　ダイニーマのフリクションノットの映像について
⑶競技部合同委員会
８月29日㈭　出席者12名
ア　競技部専門員会の常任委員及び管掌業務について
イ　高体連登山専門部の日山協加盟について
・8/1の高体連登山専門部委員長会議において加盟することで承認
ウ　高校生の選手登録について
・8/1の高体連登山専門部委員長会議で平成26年度の都道府県大会から山岳部、登山部、ワンゲル部、クライミング部所属選手の選手登録を行うことで承認
・徴収範囲、実施時期等今後の検討課題について
エ　平成25年度ブロック研修会の開催方法について
オ　主催・共催大会の役割分担について
カ　平成26年度以降の全国高等学校選抜クライミング選手権大会について
キ　2014年IFSCリードＷＣ印西大会について
ク　国体山岳競技規則の確認事項について
・ブロック大会と本国体における監督の種別変更について
ケ　国体リード競技決勝でのチーム順位決定に関するカウントバック規定について
コ　審判の昇級について
・Ｂ級昇級：新原孝喜（福岡）、畑中渉（富山）、阿部雅史（千葉）
サ　８月常務理事会報告
シ　ＪＯＣジュニアオリンピックカップ大会の報告と反省
セ　全国ルートセッター研修会の報告と反省
ス　世界ユース選手権大会の報告
ソ　アイスクライミング小委員会報告
タ　国体後催県の準備状況について
・東京都：9/9㈪抽選会
・和歌山県：理事長、競技委員長が変更
⑷指導委員会
９月２日㈪　出席者９名
ア　８月常任委員会議事録確認
イ　８月常務理事会報告
ウ　修了書の発行について
・８月分発行（ＡＣ指導員：石川５

詳しくは ➡ www.jma-sangaku.or.jp

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金　10：00 ～ 17：00（土・日・祝日除く）

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL：03-5958-3396　FAX：03-5958-3397
E-mail：sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
ＵＲＬ：http://sangakukyousai.com

名、新潟１名、茨城１名）
エ　ハイキングリーダー検討会報告
オ　講師養成講習会（8/31～9/1、神奈川山岳スポーツセンター）報告
・ＳＣ・Ａ級主任検定員養成講習会
・ＡＣ・Ｂ級主任検定員養成講習会
・ハイキング・リーダー分科会
・会計報告
カ　平成25年度公認スポーツ指導者表彰候補者について
・8/19、日体協に提出（井上、佐原、切嶋の３氏）
キ　主任検定員カードの発送について
ク　山口県ＳＣ指導員養成講習会宿泊費キャンセルの件について
ケ　登攀技術研修会（岩手、10/12～13）について
コ　ＳＣ指導員養成講習会（中央開催）について
サ　ＳＣ指導員養成講習会（地方開催）について
・宮城、沖縄、北海道、神奈川、鳥取
シ　公認スポーツ指導員の義務研修受講の徹底について
ス　ＳＣコーチ理論検定について
セ　ＡＣ上級指導員理論検定について
⑸ジュニア普及委員会
９月11日㈬　出席者５名
ア　ジュニア登山教室 in 立山の報告
・報告書の作成及び礼状発送
イ　中高年安全登山指導者講習会について
・東部・西部地区の募集状況
ウ　第52回全日本登山体育大会について
エ　ジュニア育成事業について
・少年少女登山教室の応募推進（ブロックでの開催他）
・なすかし雪遊び隊（3/26～27）について
・2014年ジュニア登山教室 in 立山（8/17～20）について
オ　全日本登山体育大会について
・事業ＷＧでの全日大会の検討について
・第54回大会の開催地について（宮城県開催候補地）

寄贈図書

寄贈本	秩父山岳連盟	「写真集 武甲山植物群」武甲山植物群保護対策推進協議会 編
雑誌	山と溪谷社	「ROCK & SNOW」061
	東京新聞	「岳人」№796.2013.10月号
	山と溪谷社	「山と溪谷」№942.2013.10月号
会報	(独)日本スポーツ振興センター	「国立競技場」Vol. 599 2013.9/10
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第555号
	福岡山の会	「せふり」№358
	やまびこ山想会	「やまびこ」第149号
	明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」№174
	中華民国山岳聯盟	「中華山岳」236
	(公財)健康・体力つくり事業財団	「健康づくり」2013.9 №425
	NPO日本トレーニング指導者協会機関誌	「JATI EXPRESS」Vol.36
	(公社)日本山岳会	「山」№819.2013年８月
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」402号
	おいらく山岳会	「山行手帖」№645
	横浜山岳会	「山」975号
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へ アルク」2013.10・11
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」2013Vol. 261
	スポーツこころのプロジェクト	「スポーツこころのプロジェクト新聞 笑顔をありがとう」2013春夏号
	COREAN ALPINE CLUB	「COREAN ALPINE CLUB」2013.9～10 vol.232
	(公財)日本体育協会	「Sports japan」2013 09-10 Vol. 9
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第502号
	長野県山岳協会	「やまなみ」№210 2013年９月10日発行
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第404号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」№287 2013.9.10
	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」第209号９月号
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.177.2013 September
	(株)法研	「保険事業に携わる人の情報誌 へるすあっぷ21」10月号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」№464.2013.10
	やまびこ山想会	「やまびこ」創立25周年記念特別号
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース/フェアプレイニュース」2013年9月17日号
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.91 №1003
	中国登山協会	「山野　中国戸外」2013.09 181期
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第308号
	日本ヒマラヤ協会	「ヒマラヤ」№466
	(公社)日本山岳会	「山」2013年９月号 №820
	おいらく山岳会	「山行手帖」№646 '13.10
	六つ星山の会	「六つ星だより」97
	日本フリークライミング協会	「Free Fan」2013.Autumn #068

⑹広報委員会
９月11日㈬　出席者５名
ア　『登山月報』10月号編集内容について
・無積雪期レスキュー講習会
・インターハイ登山大会
・山岳自然保護の集い・中央大会
・中高年安全登山指導者講習会（東部地区）
・全国「山の日」制定協議会について
・Mountain World
イ　新規編集プラン
・ヤマケン
・ブロック通信
・安全登山ワンポイントレッスン

２．その他の重要事項
（８月８日～９月11日）
［報　告］
⑴第16回ＪＯＣジュニアオリンピックカップ大会　８月10日㈯～12日㈪　於：南砺市・桜が池ＣＣ　神﨑会長、森下常務理事、北山・山本委員長
⑵みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山　８月11日㈰～14日㈬　於：国立立山青少年自然の家他　神﨑会長、本木顧問、八木原副会長、西内・仙石・青木常務理事
⑶ルートセッター全国研修会
８月13日㈫～15日㈭　於：南砺市・桜が池ＣＣ　森下常務理事、北山・山本委員長
⑷世界ユース選手権
８月15日㈭～19日㈪　於：カナダ・ビクトリア（セントラル・サーニッチ）　小日向団長ら19名
⑸第７回日中韓三国合同学生登山レセプション　８月16日㈮　於：神奈川大学横浜キャンパス　神﨑会長

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
蛭ケ岳山荘　TEL:090-2252-3203(衛星電話)
神の川ヒュッテ　TEL:042-787-2276
和田峠「峠の茶屋」　TEL:042-687-2882
理事長・代表　杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
○ 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
○ 陣馬山トレイルレース実行委員会
○ 八重山トレイルレース実行委員会
○ 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
大会々長　杉本憲昭

⑹第７回日中韓三国合同学生登山フェアウェルパーティ
８月20日㈫　於：神奈川大学横浜キャンパス　神﨑会長
⑺印西市市長、教育長表敬訪問
８月21日㈬　於：印西市市役所　神﨑会長、森下常務理事
⑻2020年東京五輪招致出陣式
８月23日㈮　於：都庁第１本庁舎５Ｆ大会議室　尾形専務理事
⑼レスキュー講習会
８月23日㈮～25日㈰　於：国立登山研修所　西内常務理事
⑽文部科学大臣スポーツ功労者顕彰式　８月27日㈫　於：ＡＮＡインターコンチネンタルホテル東京　尾形専務理事
⑾高体連登山専門部との打ち合わせ
８月29日㈭　於：岸記念体育会館　尾形専務理事
⑿三井住友海上火災保険との打ち合わせ　８月30日㈮　於：三井住友海上火災保険東京本社　内藤監事、尾形専務理事
⒀日本山岳写真協会写真展表彰式・祝賀懇親会　８月31日㈯　於：上野精養軒　神﨑会長
⒁ＳＣ・Ａ級、ＡＣ・Ｂ級主任検定員養成講習会　８月31日㈯～９月１日㈰　於：神奈川県山岳スポーツセンター　瀧本常務理事
⒂山森欣一氏日本山岳グランプリ受賞記念祝賀会　９月７日㈯　於：プラザエフ　尾形専務理事ほか

３．議　事

⑴平成25年度８月常務理事会議事録の承認について（承認）

⑵平成25年度専門委員会常任委員候補者の追加について（提案通り承認）
⑶全国「山の日」制定協議会の発起人承諾について（承認）
⑷高体連登山専門部の加盟に伴う選手登録について（提案通り承認）
⑸報告事項
ア　会計月次
イ　「救護に関する協定書」締結に伴う連帯保証人について
ウ　平成25年度雪崩災害防止功労者の候補者推薦について
エ　ＢＭＣ国際ウインタークライマーズミートの派遣について
オ　世界ユース選手権報告
カ　第68回東京国体組合抽選結果とブロック大会成績
キ　第71回岩手国体中央競技団体第１次正規視察報告
ク　富士山保全協力金の社会実験実施結果報告
ケ　適正な組織運営に向けて

４．役員等の派遣について

⑴2020年五輪開催都市決定報告会
９月17日㈫　於：京王プラザホテル　神﨑会長、尾形専務理事
⑵第２回富士山利用者負担専門委員会　９月25日㈬　於：都道府県会館　尾形専務理事
⑶「山の日」制定協議会
９月26日㈭　於：日本山岳ガイド協会　尾形専務理事
⑷国立登山研修所「登山研修」編集委員会　10月７日㈪　於：国立競技場会議室　尾形専務理事
⑸平成25年度中高年安全登山指導者講習会　10月11日㈮～13日㈰　於：休暇村南阿蘇　神﨑会長、仙石常務理事
⑹登攀技術研修会　10月12日㈯～13日㈰　於：岩手県営運動公園　永井副委員長
⑺ＳＣ指導者養成講習会
10月26日㈯～27日㈰
於：埼玉・加須市　瀧本常務理事
⑻全国参与会
11月８日㈮　於：茨城県水戸市　神﨑会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事、仙石常務理事
⑼第52回全日本登山体育大会
11月８日㈮～10日㈰　於：茨城県・奥久慈、筑波山周辺　神﨑会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事、仙石常務理事

５．後援、協賛等の依頼について

ア　「第21回日本山岳耐久レース（24時間以内）～長谷川恒男ＣＵＰ」の後援名義（日本山岳スポーツ協会主催）（承認）

６．報　告

⑴自然保護指導員の承認　な　し
⑵指導員の認定承認
①ＳＣ指導員　な　し
②ＳＣ上級指導員　な　し
③アルパイン指導員　な　し
④アルパイン上級指導員　な　し
⑶クライミング競技審判員の昇級認定
①Ｃ級からＢ級への昇級：新原孝喜（福岡）、畑中渉（富山）、阿部雅史（千葉）以上３名（承認）

7.通知、依頼、連絡、案内等

別紙の通り

8.連絡事項

①平成25年度10月常務理事会
10月９日㈬　17:30～21:00（岸記念体育会館103号）

編集後記

「スポーツ祭東京2013」第68回国体の応援に出かけた。成年男子のリード競技は始終雨天の中、競技役員他関係者の尽力で開始時間が遅れたが実施された。国体観戦は何年ぶりかであったが、コンパクトでスマートな運営であったように思う。選手層も若手台頭で競技力も向上、レベルも均衡してきている。

７年後の東京オリンピックで何かアピールできて、将来は正式競技にと思うのは関係者の願望であろう。

（広報担当　水島彰治）

登山月報　第535号
定　価　100円（送料別）
予約年間1,200円送料共
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
（毎月１回15日発行）
発行日　平成25年10月15日
発行者　東京都渋谷区神南1の1の1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会
電　話　03－3481－2396
ＦＡＸ　03－3481－2395